

京都代協(安井義幸会長)は5月23日午後3時半から、京都市下京区のキャンパスプラザ京都で会員37名(委任状200名)参加のもと第18期(通算63期)通常総会およびセミナーを開催した。来賓として損保協会近畿支部京都損保会井脇太郎会長、各損保会社京都支店、支社長ら、および日本代協小橋信彦理事、奈良県代協谷口功会長、服部典正顧問、滋賀県代協は洞成孝専務理事、また、福山哲郎参議院議員が出席した。



安井会長

総会では、安井会長が挨拶に立ち、「ビッグモーター問題、そしてカルテル問題と次々と業界の闇

## 組織率90.5%、全国1位



総会の様子

### 京都代協 第18期 通常総会を開催

ティ東京が今年1月24日に関東財務局から業務改善命令を受けた。私たちがこれまで何度も企画環境委員会に報告をしてきた不正募集に関する事例がこの改善命令につながったのだと確信している。皆様も諦めず声を上げ続けてほしい。今年の2月末には、金融庁監督局保険課保険サービス監視専門官の小野様、財務省の職員2名を京都代協の事務局にお招きして、意見交換会をさせていただいた。これは画期的なことだった。また、本日参加いただいた福山哲郎参議院議員からは、期

間、また、本日参加いただいた福山哲郎参議院議員からは、期

計画の重点目標等について言及し、「代理店の皆様と保険会社、共に力を合わせて、様々なリスクや不安からお客様を守り、続けていくために挑戦を続けることが損害保険業界の使命であると考えている。これからも創意工夫を重ねながら取り組みを進めてまいりたい」と締めくくった。

また、昨年度承認を得た会費改定等により数年度続いていた赤字会計から脱却できたこと、また日本代協の3冠(会員増強推進、コンサルティンクコース、ぼうさいマップコンクール)を達成したことと報告、感謝の意を表するとともに引き続き協力いただきたいと呼びかけた。

品質において業界を代表する存在」となるため、顧客本位の業務運営を中心に据え、今後起こり得る様々な変化に対して会員・保険会社相互で力を合わせ柔軟に対応、活動にまい進していくこと等を確認した。

総会終了後に小橋理事が登壇し、従来より京都代協は全国の代協を牽引する存在であり、さらに代理店数の減少が続くなか組織率9割を超えていることは驚異的なことと伝えた。自らも保険業界を良くするための活動に尽力していくので、現場で気付いたことや意見があればどんどん伝えてほしいと呼びかけた。

山梨代協(土屋契会長)は5月20日、甲府市のシヤトレゼホテル談話館で2025年度通常総会を開いた。

議案審議に先立ち挨拶した土屋会長は、昨年度の活動の振り返りと今年度注力したい取り組みについて説明。昨年度の活動ではとりわけ防災・減災をテーマに力を入れたことと、甲府駅北口での防災フェスティバルをはじめ、ぼうさい探検隊への積極的な参加呼びかけは、いつ発生するかわからない災害に備える意識を醸成し、特に子供たちには体験を通して危険と備えを意識してもらえらる素晴らしいものだった」と話した。

山梨代協(土屋契会長)は5月20日、甲府市のシヤトレゼホテル談話館で2025年度通常総会を開いた。

議案審議に先立ち挨拶した土屋会長は、昨年度の活動の振り返りと今年度注力したい取り組みについて説明。昨年度の活動ではとりわけ防災・減災をテーマに力を入れたことと、甲府駅北口での防災フェスティバルをはじめ、ぼうさい探検隊への積極的な参加呼びかけは、いつ発生するかわからない災害に備える意識を醸成し、特に子供たちには体験を通して危険と備えを意識してもらえらる素晴らしいものだった」と話した。

山梨代協(土屋契会長)は5月20日、甲府市のシヤトレゼホテル談話館で2025年度通常総会を開いた。

議案審議に先立ち挨拶した土屋会長は、昨年度の活動の振り返りと今年度注力したい取り組みについて説明。昨年度の活動ではとりわけ防災・減災をテーマに力を入れたことと、甲府駅北口での防災フェスティバルをはじめ、ぼうさい探検隊への積極的な参加呼びかけは、いつ発生するかわからない災害に備える意識を醸成し、特に子供たちには体験を通して危険と備えを意識してもらえらる素晴らしいものだった」と話した。

### 愛知県代協

## 第17回通常総会を開催 業界の健全な発展に向けて

愛知県代協は5月30日、名古屋市中村区のウインクあいちで、第17回通常総会を開催した。会場出席者は45名、委任状(301通)を含め正会員数2分の1以上の出席により成立が宣言された。



橋会長

「社会的地位の高い専門職」としての確立を目指して努力してきた。現在、制度改革や法整備が進む中で、専業代理店がより主役となり、目指している時代が到来しつつあることを実感している。

1951年の保険料率算出団法、1996年の保険業法改正、2016年の体制整備などを経て、来年度の節目となる10年を迎えるが、特に大型法人内代理店や大手毛

「社会的地位の高い専門職」としての確立を目指して努力してきた。現在、制度改革や法整備が進む中で、専業代理店がより主役となり、目指している時代が到来しつつあることを実感している。

1951年の保険料率算出団法、1996年の保険業法改正、2016年の体制整備などを経て、来年度の節目となる10年を迎えるが、特に大型法人内代理店や大手毛

「社会的地位の高い専門職」としての確立を目指して努力してきた。現在、制度改革や法整備が進む中で、専業代理店がより主役となり、目指している時代が到来しつつあることを実感している。

1951年の保険料率算出団法、1996年の保険業法改正、2016年の体制整備などを経て、来年度の節目となる10年を迎えるが、特に大型法人内代理店や大手毛

「社会的地位の高い専門職」としての確立を目指して努力してきた。現在、制度改革や法整備が進む中で、専業代理店がより主役となり、目指している時代が到来しつつあることを実感している。

1951年の保険料率算出団法、1996年の保険業法改正、2016年の体制整備などを経て、来年度の節目となる10年を迎えるが、特に大型法人内代理店や大手毛

### 山梨代協

## 2025年度通常総会を開催

### マスコミと連携した活動やWEB発信に注力

山梨代協(土屋契会長)は5月20日、甲府市のシヤトレゼホテル談話館で2025年度通常総会を開いた。

総会では2024年度事業報告や決算報告、監査報告、2025年度事業計画、予算案など6つの付議事項が審議され、いずれも承認可決された。

議案審議に先立ち挨拶した土屋会長は、昨年度の活動の振り返りと今年度注力したい取り組みについて説明。昨年度の活動ではとりわけ防災・減災をテーマに力を入れたことと、甲府駅北口での防災フェスティバルをはじめ、ぼうさい探検隊への積極的な参加呼びかけは、いつ発生するかわからない災害に備える意識を醸成し、特に子供たちには体験を通して危険と備えを意識してもらえらる素晴らしいものだった」と話した。

このうち、学校や団体にアウトリーチ活動や防災・減災に関する意識向上を目指す出前授業については、「昨年度は実に意識している」と述べ、日本代協と金融庁という組織同士での関係構築を大切にしていく考えを示した。



土屋会長



金澤専務理事

## 山梨代協のブランド力を高める